

戦前のカナダ伝道と日系移民社会 ③

おやさと研究所研究員
尾上 貴行 Takayuki Onoue

天理教の先駆的伝道者たち

アメリカやハワイと同様に、カナダにおいても天理教伝道は当初主に出稼ぎを目的として渡航し徐々に定住していった日本人を対象に展開した。布教活動に従事したのは、布教目的で渡航した者、カナダで入信した者などさまざまであった。まず先駆的な伝道者として活躍をした主な人々についてみていく。

時安幸八

カナダ伝道の嚆矢は1910年代に布教活動を開始した高安大教会部属の時安幸八とされる。広島県出身の時安は1903年にハワイからカナダへ渡り、ブリティッシュコロンビア州で林業や漁業に従事していた。日本に一時帰国した際に入信し、再渡航後から熱心に布教活動を行うようになった。漁業が盛んなステューブストンで日本人漁師たちの間を回り寄付を集め、1929年には集談所を設立している。このころにはバンクーバーやステューブストンの日系移民社会では「天理教の時安」として知られるようになっていた。加奈陀教会4代会長の大倉ひさのは伝え聞いた話として当時の様子について、

時安さんがステューブストンの教会を建てる時に、あの人もフィッシャーマンでしたからシキーナという漁師の村を訪ねて、教会を建てるからと言って寄付を集めて廻られた。その方はいつもおどりをして、それをにをいがけの手だてにしておられました。「みかぐらうた」はその頃は「おかぐら」といったのでしょうか。行く先では決まって「おかぐらを踊って見せよ」と言われるものですから、一軒々々廻る度に「おかぐら」をした。それで寄付を集めて教会を建てられたということなんです。(『天理教海外部報』No.428、2000年10月26日、14頁)

と述べている。

1933年には中山正善2代真柱がアメリカ巡教のうちにバンクーバーにも訪れ、この集談所へも立ち寄ったが、これを時安は無上の喜びとしたという。その翌年に集談所の前で座ったままの姿で亡くなった。時安を知る人から後にその様子を聞いたVancouver教会初代会長西賢一は「姿勢の崩れが無いということは、一片の苦しみもなかったのでしょうか。……只々親神様におもたれして教理の実践に生きた生涯の納め時、私はこれこそ見事な死、大往生ではないかと思えます。」(『一れつ』No.711、2006年10月、6頁)と述べている。また時安の娘も父親について「世間の常識からは、誠に気の毒な一生であったかもしれない。けれども道に生きるものの在り方としては、最高の生き方として誇りに思い、我も父のごとくかくありたいと思うものである。今も洋かんの色の羽織と、板のような下駄が目につかぶ。」(『みちのとも』1977年1月号、6頁)との記しており、「あらくれ者」たちの救済に専心した布教師の姿勢がその亡くなる姿にもうかがえる。

柴田エイ

本島大教会部属で広島出身の柴田(のち辻本)エイは、天理教に入信したのち布教活動に従事していた。バンクーバーに在

住していた兄の初蔵が1928年に日本へ一時帰国しカナダへ再渡航する際、ともに渡航しカナダで布教活動を行うことを決意した。翌1929年にバンクーバー教会の設立許可を受け渡航すると、バンクーバーで精力的な布教活動を展開した。しかし、1933年に日本へ一時帰国し再渡航しようとした際にカナダの移民法に触れ、再入国が許可されなかった。

バンクーバーの教信者たちは、柴田を呼び戻すために様々な手段を検討したが、結局再入国することはできなかった。しかし、片山好造本島大教会長の強い海外伝道への思いを受け、柴田はアメリカのシアトルに渡り布教活動を展開した。戦後にはタコマ教会を復興し3代会長に就任している。また後述するように柴田は先駆的伝道者の一人である神出トマを導いた。

安田マン

筑紫大教会部属の安田マンは鹿児島県出身で、若いころから天理教の教えを聞いていた。結婚したのち、バンクーバーへ出稼ぎに出ていた夫の寅之助を追って、1921年に3人の子供とともにカナダへ渡った。夫が大工や庭師として働く一方で、安田マンは布教活動を行い、ケローナ市に在住していた南海大教会部属の信者沖慶太郎夫妻や茨木正男らとともに茨木宅で講社祭をつとめていた。

1934年に天理教教会本部によってカナダを統括する加奈陀教会が設立され、初代会長として本部から鈴木亨が派遣されると、安田はその命によりステューブストンで布教活動を行うようになった。日米が開戦しカナダが日本へ宣戦布告をすると、他の日本人らとともにブリティッシュコロンビア州のニューデンバーへ強制移動させられたが、そこでも周囲の人々への布教を行っていた。戦後にバンクーバーへ戻ると、柴田エイが戦前に設立したバンクーバー教会をグランビル教会と改称して復興し、本島大教会から加奈陀教会へと所属を変更して、2代会長に就任した。

神出トマ

神出トマは広島県安佐郡に生まれた。同じ広島出身の神出千代吉と結婚し、ハワイへ渡り2人の子供を授かる。そののちバンクーバーへ移動し、夫婦で林業に従事していたが、激しい労働と厳しい環境の中で体調を崩した神出トマは、1930年ごろに腎臓を患い、瀕死の状態であった。そのような時に、柴田エイのおさづけにより病気は快復した。柴田の勧めで日本に一時帰国し、教会本部の別科で学んだのち、教師としてバンクーバーへ戻ると、熱心に布教活動に励むようになった。柴田が再入国できなかったため、神出はバンクーバー教会長代理としてつとめた。

戦時中はスカーロン収容所に入ったが、収容所内でも天理教の教えを伝え、信仰実践に励んでいたため「天理教のおばさん」(『一れつ』No.543、1992年3月、13頁)と呼ばれ、慕われていた。戦後は東部のトロントへ移住し、1956年の教祖70年祭に帰参した際に、トロント教会設置の許可を得て、初代の会長となった。

[参考文献]
天理教アメリカ伝道庁編『天理教アメリカ伝道庁五十年史』アメリカ伝道庁、1984年。